

【タイトル】Shin 絆 -絶望の中で小さな光が差し込む物語-

【概要】

近年、不登校小中学校 34.6万人11年連続増・いじめ認知件数 73万件3年連続増・精神疾患15年で2.3倍増の614.8万人・自殺者数 2.1万人/年と深刻化しており、多くの人が「絆」や「生きる意味」を見失いがちです。

本書は、そんな絶望の中でも「Shin(真・芯・心・親・信・新・深)」の光を見つけ、新しい絆を築いて生き抜く物語です。

【企画の特徴】

- ・「Shin」に込められた意味を軸に、読者に新しい絆の形を提示
- ・ 幼い頃からのリアルな経験をもとにしたストーリー形式で、より読者の共感を呼ぶ
- ・ 自己理解・未来への希望を与えるヒントを随所に散りばめ、読者自身の生き方を見直すきっかけを紹介

【想定する読者ターゲット】

- ① 10代後半～40代の男女(子ども時代からのストーリーである為、幅広い世代にも刺さる普遍的な内容)
- ②トラウマがあり心に余裕がない人
- ③孤独や孤立に現在直面している人
- ④新しい絆の形を知りたい人
- ⑤人生に希望が持てない人、未来が暗いと思っている人
- ⑥現在支援者であり、向き合い方に行き詰まっている人

【構成案】

第1章 はじめに

- ・主人公(佐々木みく38歳)の現在の日常
- ・生活苦、孤独感、過去のトラウマが影響していること

第2章 逆境を生き抜く力～親・心～

- ・良妻賢母42歳女性のストーリー 将来、眼が見えなくなる未来～親～
- ・美魔女56歳女性のストーリー 親から「生まれてくるはずじゃなかった」と言われてきた経験～心～

第3章 傷つけられた心を取り戻す～芯・新～

- ・いじめから連続起業家になったイケメン若手経営者29歳男性のストーリー～芯～
- ・DV被害から逃げた華の65歳女性のストーリー～新～

第4章 見えない相手への想い～深・信～

- ・主人公(佐々木みく)、見えない会えない相手との絆～深～
- ・32歳体育会系男性のストーリー 片親で育ち、会ったことのない母を想う～信～

第5章 それでも生きる理由

- ・主人公がそれらの経験を通して得たもの
- ・「shin絆」を知った上で、今の生活をどう生きるか

【サンプル原稿】

Shin 絆 -絶望の中で小さな光が差し込む物語-

第1章 はじめに

“絆を紡げる場所を見つけることが小さな光になるから。あなたなら大丈夫、理想と現実とのギャップに苦しむあなたにぜひ手に取って読んで頂きたい著書として、寄り添う気持ちを深く込めて書いた作品となっております。私(主人公:佐々木みく)自身もShin絆のストーリーからこれからの未来を創っていく。以下、序文の通りに続く...

心は1人だった。いつからだろう。
学生時代は恋愛をそこそこし、仕事に万力注いでからの恋愛結婚。
しかも、皆がいう勝ち組ハイスぺ夫だ。

子どもも順調にポポンと男女2人。健康体だ。

いつからだろう。心が1人きりだと感じるようになったのは。
苦しくても悲しくても結婚という法律にむやみに縛られていた。自分でもなかなか鎖をほどけず、ムダに力が入ってしまっていた。ただただ、朝、目が覚めても、体が動かない。スマホに手を伸ばす力も出ないくらい、いつの間にか消耗していた。

ある時、幾度も顔を合わせた知人達との飲み会。
彼女(ゆりこ)は可愛い、しかもインフルエンサーだ。
仕事の場でのみ、会っていた為、
プライベートの姿を見たのは初めてだ。気軽なやりとりを楽しんでいた。

ゆりこの旦那と私は大学が一緒に、彼らは仲の良いお手本の夫婦。

ところがゆりこは、仕事のできる男性、こうきに「わたし、こうき好き〜っ」と今にも、では無く、すでにくっつきまくりだ。「旦那はわたしがこんなの知っても大丈夫だから〜。」って言った。仕事の為もあったのかもしれない。その後2人で消えていった。

2人の様子を見て、いつも飲まない50度のお酒を飲み切ったコトにも気付かず1人電車に乗る前から、とにかく、号泣。東京の夜は人だらけなのに。しかも華金の山手線だ。
もう、一旦入ったスイッチは止まらなかった。
せめてもの救いなのか、かなり酔ってた。どれだけの時間泣いてたのかも、どれだけの人、誰に見られてたのかも全くわからずだ。

「なんで、泣いてたと思う？」
ずっと、心は1人で。
心の中だけで、必死にたすけて。助けて。って
いつも叫んでるわたしは冗談でもイイから

人の体温が恋しかった。元気になれる気がしない？体温だけでもずっと欲しかった。人は消耗すると、身体が硬くなるようだ。冗談でも抱きつくコトすら出来なかったから。助けてって声にも出せなかった。

いつからだろう。

その頃の私は、朝になると身体が動かず、拳句の果てにはめまいで倒れそうな違和感。起き上がるまでに1時間弱。その状態で生活出来ただけ幸せだ。

仕事も入ってる中、遅刻三昧。常習犯だ。

確信犯でもあった。すべて出席してたら体力が持つのか自信がないからだ。

常識であれば干される。仕事での遅刻常習犯。干される覚悟ができた上でそうするしかなかったのだ。

しかも毎日モノを探していた。それは追って話していくが、これまで経験したことのない程の消耗感と焦燥感を日々感じていた。

独身の頃は自分のコトに集中できる。

主婦は自分以外、頭3-4個のスケジュールと出来事を同時にこなすのだ。よく分からない人は是非、試してみてほしい。

人は誰もが完璧なんてなかなか、なかなか無くて。

理想の世界に生きているコトもなかなかない。

どうしても、どんなにもがいても光が見えない場所だってある。

もともと見えない場所からのスタートの人もいるんだ。

そんな時。

あきらめないで。

家族じゃなくてもいい。

会えなくてもいい。

人間じゃなくてもいい。

絆を紡げる場所を見つけることが小さな光になるから。あなたなら大丈夫。

[以上となります。大変恐縮ではございますが、櫻井先生方から小説についてご教授いただきたく存じます。

よろしく願い申し上げます]

出典: 文部科学省『令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果概要』

厚生労働省『令和6年版自殺対策白書』

厚生労働省『第4回新たな地域医療構想等に関する検討会』2024年